

教員・授業・勉強・研究について

授業への興味..... 8

約9割の学生は 授業に関心がある

授業に興味が「ある」、「ややある」

学部学生 89.2% 大学院学生 95.9%

授業出席率..... 10

学生全体の61.5%が9割以上の出席率

出席率「90～100%」 学部学生58.5%、大学院学生74.4%

教員との対話..... 12

低学年の学部学生で教員とよく対話している学生は1割にも満たない

教員と対話を「している」「たまにしている」 学部学生 40.2% 大学院学生 84.3%

授業の満足度..... 14

授業の満足度は高くない

満足できる授業の割合が「60～80%」、「80～100%」 学部学生 34.2% 大学院学生 57.0%

授業選択の要素..... 16

授業選択の主たる要素は講義内容

出席率の低い学生にとって重要な要素は、講義内容と並んで

「出席チェックの有無」、「単位取得の難易」

大学での学問の有用性..... 17

勉強が将来役立つと考える学生はほとんどの授業に出席している

勉強が将来役立つと「思う」、「やや思う」 学部学生 80.1% 大学院学生 93.9%

留学への不安要素..... 18

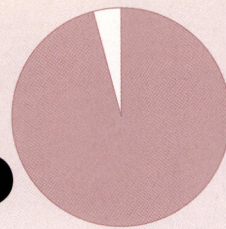
留学への不安要因は、費用と外国生活

留学への不安 「留学費用」 57.2% 「外国での生活」 35.2%





約9割の学生は 授業に関心がある



授業への興味

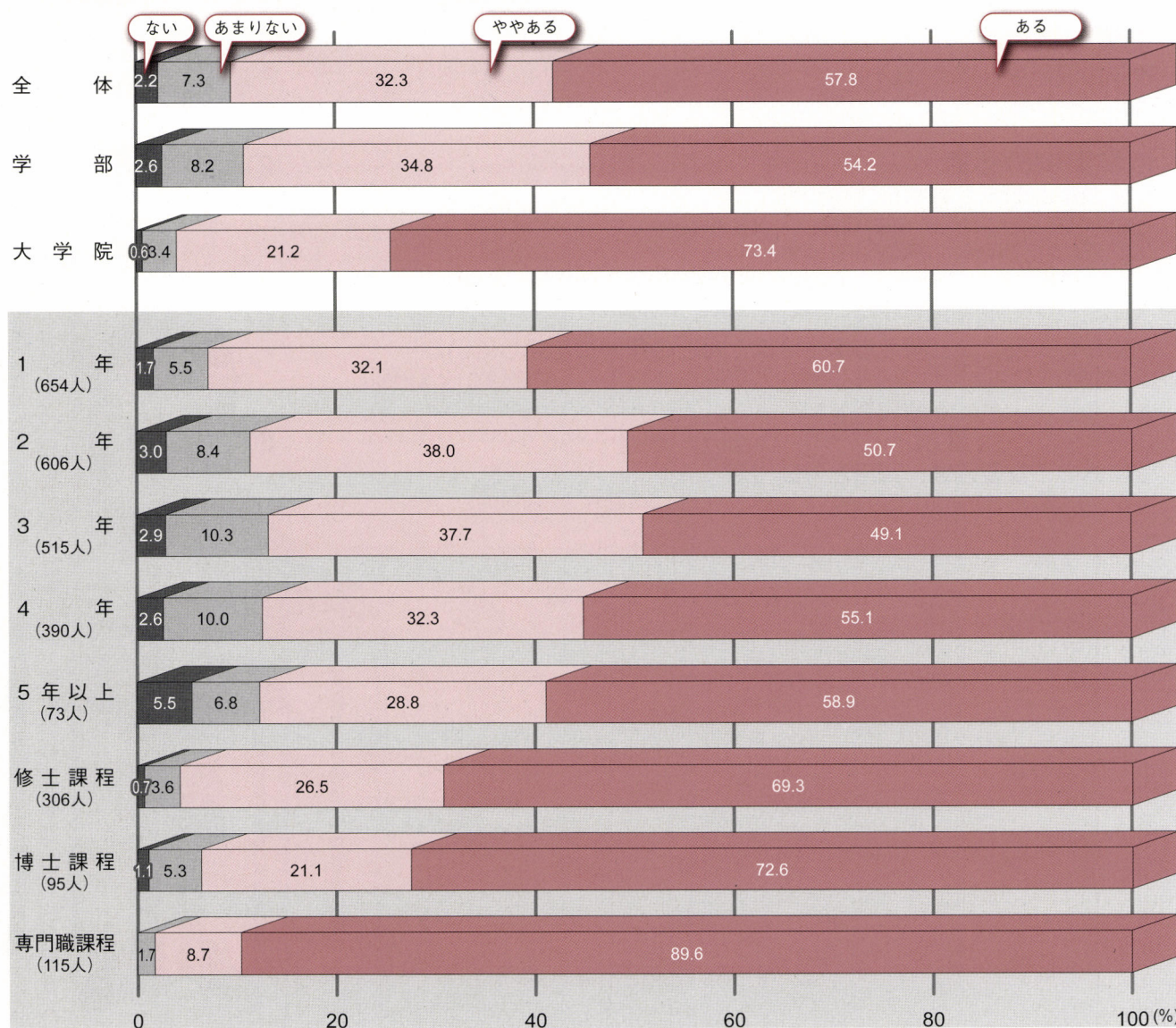
POINT

授業に興味がある、「ややある」
学部学生 **89.2%** 大学院学生 **95.9%**

回答のあった学生のうち約9割が授業に興味がある、「ややある」と回答しています。学部学生では89.2%、大学院学生では約96%もの高い割合です。これはここ数年、変わらない傾向です。積極的に授業に興味がある」と回答した割合は、平均値（57.8%）に比べ目立って低いのが2年生と3年生であるのに対し、入学直後と卒業間際の学部学生、そして大学院学生では、回答率が高い傾

向が見られます。特に専門職課程の学生では約9割が「ある」と答え、「ややある」まで含めれば98.3%と、ほぼ全員に近い高率の関心度を示しています。グラフには示していませんが、男女別では、興味がある、「ややある」と回答した男性（87.0%）に比べ、女性（95.3%）の関心度の高さが目を引きました。

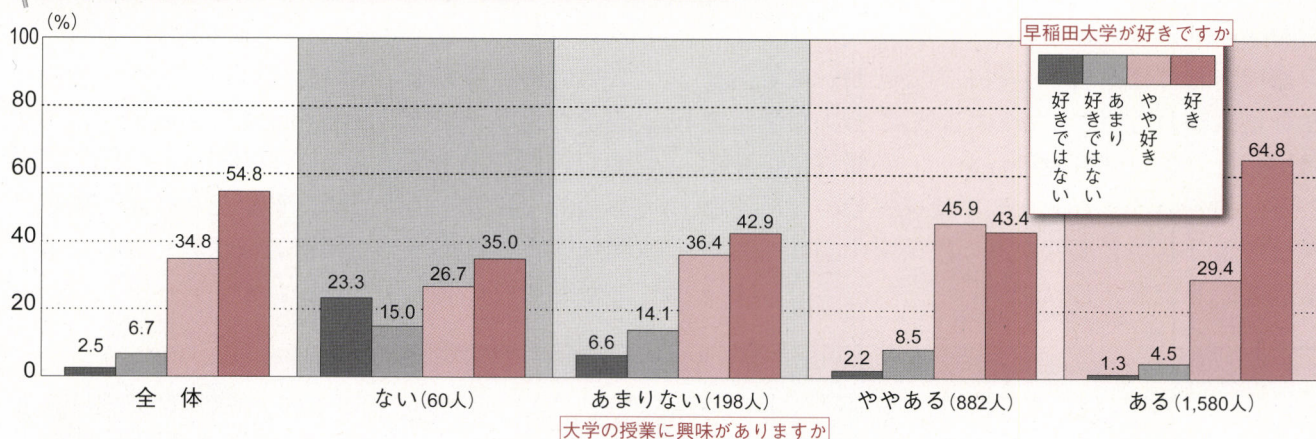
大学の授業に興味がありますか？ 学年別



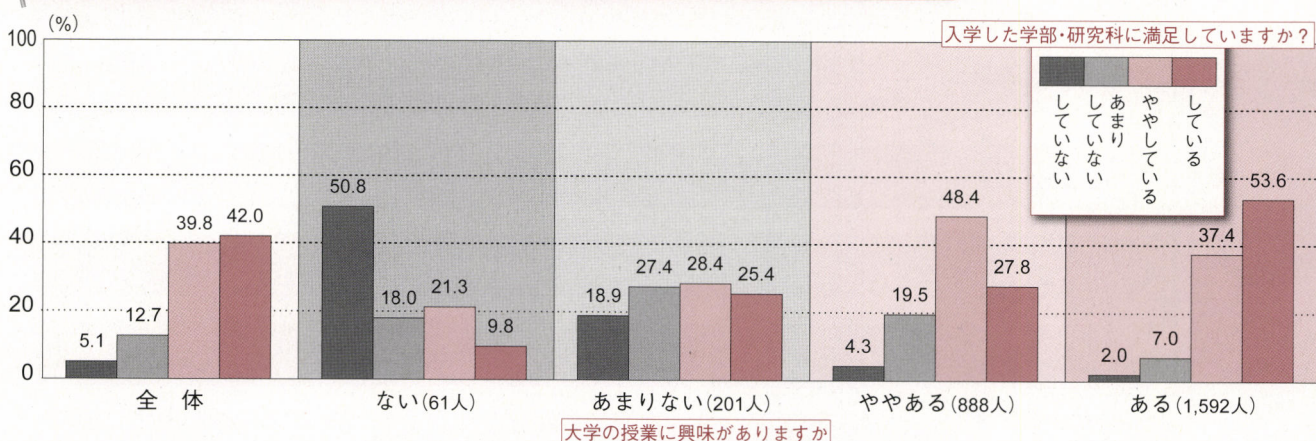
これもここ数年変化のない傾向ですが、早稲田への愛着と授業への興味は相関があり、授業へ興味があると回答した学生ほど早稲田大学が好きと回答しています。同様に授業への興味と相関を示しているのが、所属学部・研究科の満足度と大学生活の充実度で、授業へ興味があると回答した学生ほど、入学した学部・研究科に満足していると回答した割合、および大学生活が充実していると回答した割合が高くなっています。

授業に興味をもって臨んできた学生に、十分に期待に応える授業を提供していけば、学生の満足感や大学生生活の充実感、さらには早稲田への愛着を高めていくことが示唆されている可能性があります。そうであるなら、なおいっそう、大学生活の中心的位置にあるはずの授業を日々改善し、また学生の学問への関心を喚起し続けることの重要性が再認識できるでしょう。

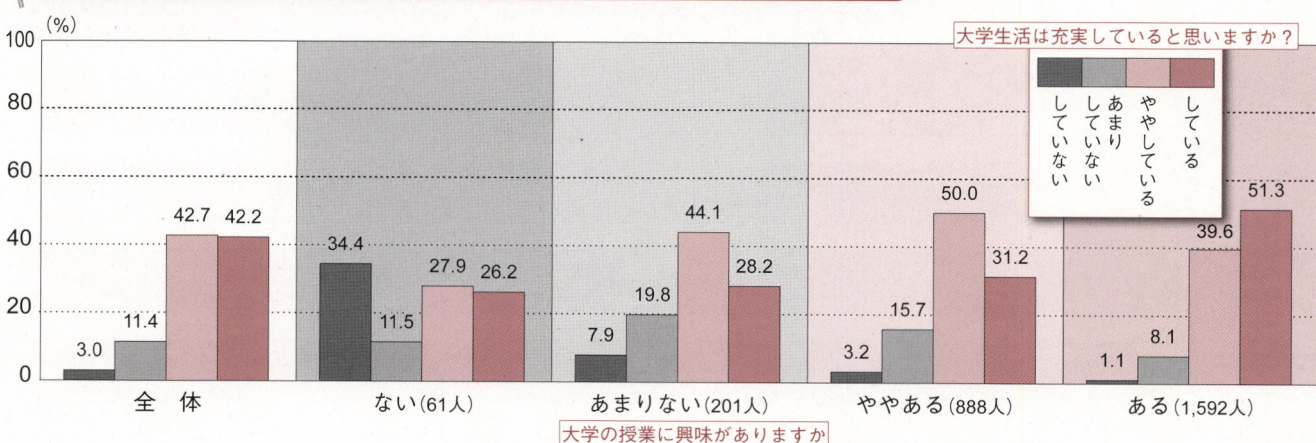
クロス集計 授業に興味がありますか／凡例早稲田大学が好きですか



クロス集計 授業に興味がありますか／凡例入学した学部・研究科に満足していますか



クロス集計 授業に興味がありますか／凡例大学生活は充実していると思いますか





学生全体の61.5%が 9割以上の出席率

授業出席率

POINT

出席率「90~100%」

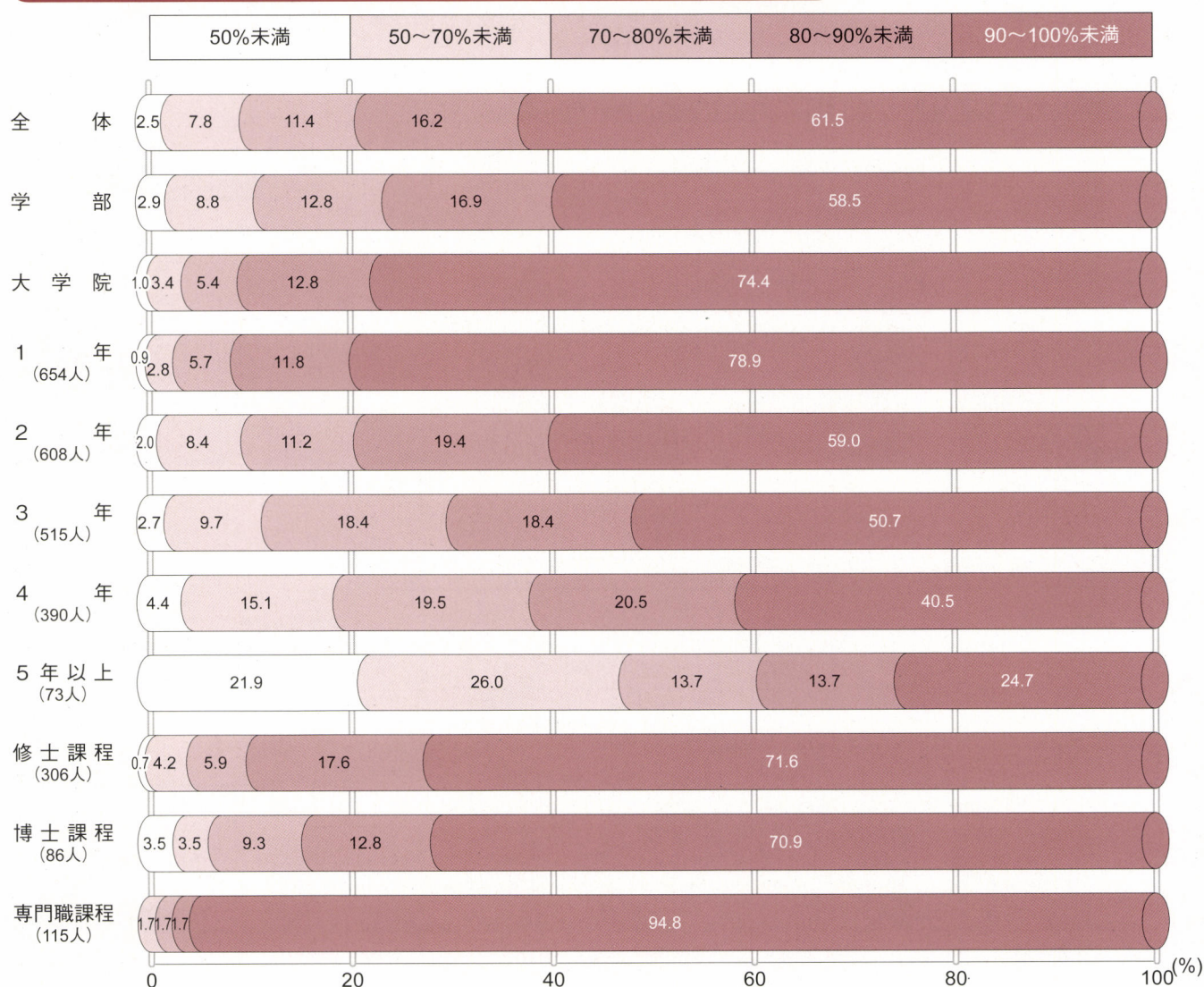
学部学生**58.5%**、大学院学生**74.4%**

出席率が90%以上の学生が全体として6割を超えていますが、学部学生では学年が上がるほど、出席率が下がっています。

原因としては、アンケート調査時期が就職活動や資格試験の時期と重なっていること、高学年では出席をとる語学教養科目ないし必修科目が減ること、あるいはまた、ゼミや研究室での専門的な科目を軸として必要性が高い授業を中心に受講する態度、等が考えられます。

他方、1年生から2年生にかけての出席率の低下については、単純に授業への関心の低下、または授業以外の事柄への関心の増加が考えられます。この時期に出席率の低い学生は、一般的に留年や退学の確率が高まるため、注意が必要です。大学側も、さらなるカリキュラム体系の工夫を行い、魅力的な授業を提供して、学生を高学年での専門的な学習・研究へ導く積極的な誘因を整備することが必要ではないかと思われます。

あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいありますか？ 学年別



授業の満足度を高めるために ～シラバス検索システムの活用を～

この章での調査結果が示すとおり、学生の約9割が授業に関心を持っています。にもかかわらず授業の満足度は学部学生34.2%、大学院学生57.0%と低い結果が出ています。授業そのものの改善をはかることはもちろん大切ですが、「選択した科目を実際に履修したら、講義内容がイメージと違った」ことが、授業に満足できない要因の一つであることも考えられます。

このようなミスマッチを防ぐためにも、WEB上で提供されている「シラバス検索システム」をぜひ活用してください。シラバスには授業内容や授業の進め方など、授業選択の参考になる具体的な情報が掲載されています。シラバス検索システムでは「キーワード」、「科目名」、「教員名」のいずれかの検索条件を入力することで、条件に合う科目の内容を参照できます。

また「科目設置学部／大学院」、「学期」、「曜日」、「時限」の単位で検索することも可能です。

【シラバス検索システム】

早稲田大学トップページ (<http://www.waseda.jp/top/index-j.html>)

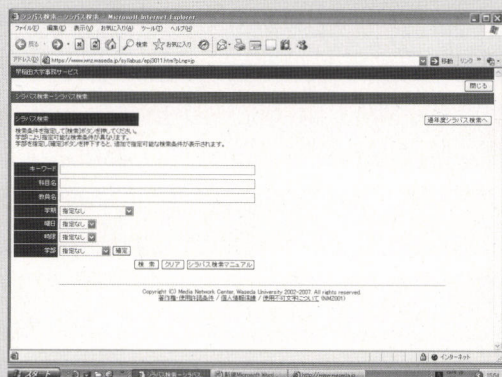
→「在学生の方」

→「シラバスシステム」

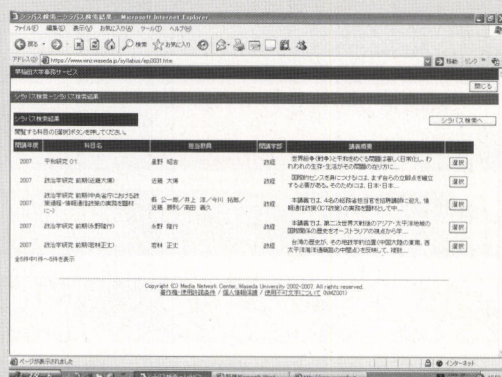
【参考】シラバス (Syllabus) とは

授業科目の詳細な授業計画のことをシラバスと言い、一般的には、授業名、担当の教員名、講義の目的、各回ごとの授業内容、成績評価の方法や基準、準備学習についての指示、教科書・参考文献、履修条件などが記載されています。シラバスは、学生に科目選択のための情報を提供する役割のほかに、授業期間全体を通じた授業の進め方を示すとともに各回の授業に求められる予習についての具体的指示を提供するという役割があり、後者の役割を充実していくことが重視されています。

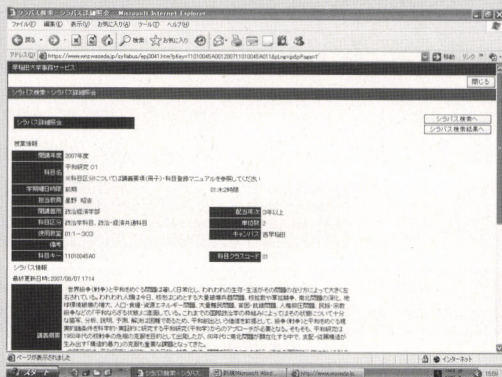
(文部科学省 Web サイト (<http://www.mext.go.jp/>) より引用)



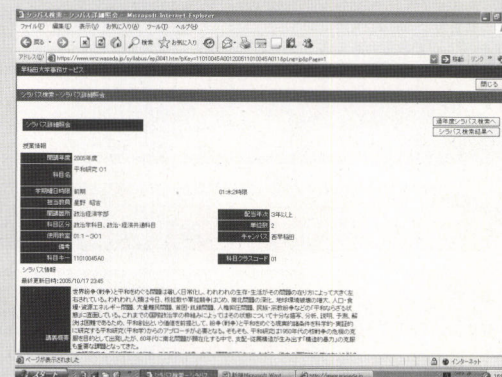
シラバス検索



シラバス検索結果



シラバス詳細照会



過年度シラバス検索



低学年の学部学生で教員とよく対話している学生は1割にも満たない

教員との対話

POINT

教員と対話を「している」「たまにしている」
学部学生 **40.2%** 大学院学生 **84.3%**

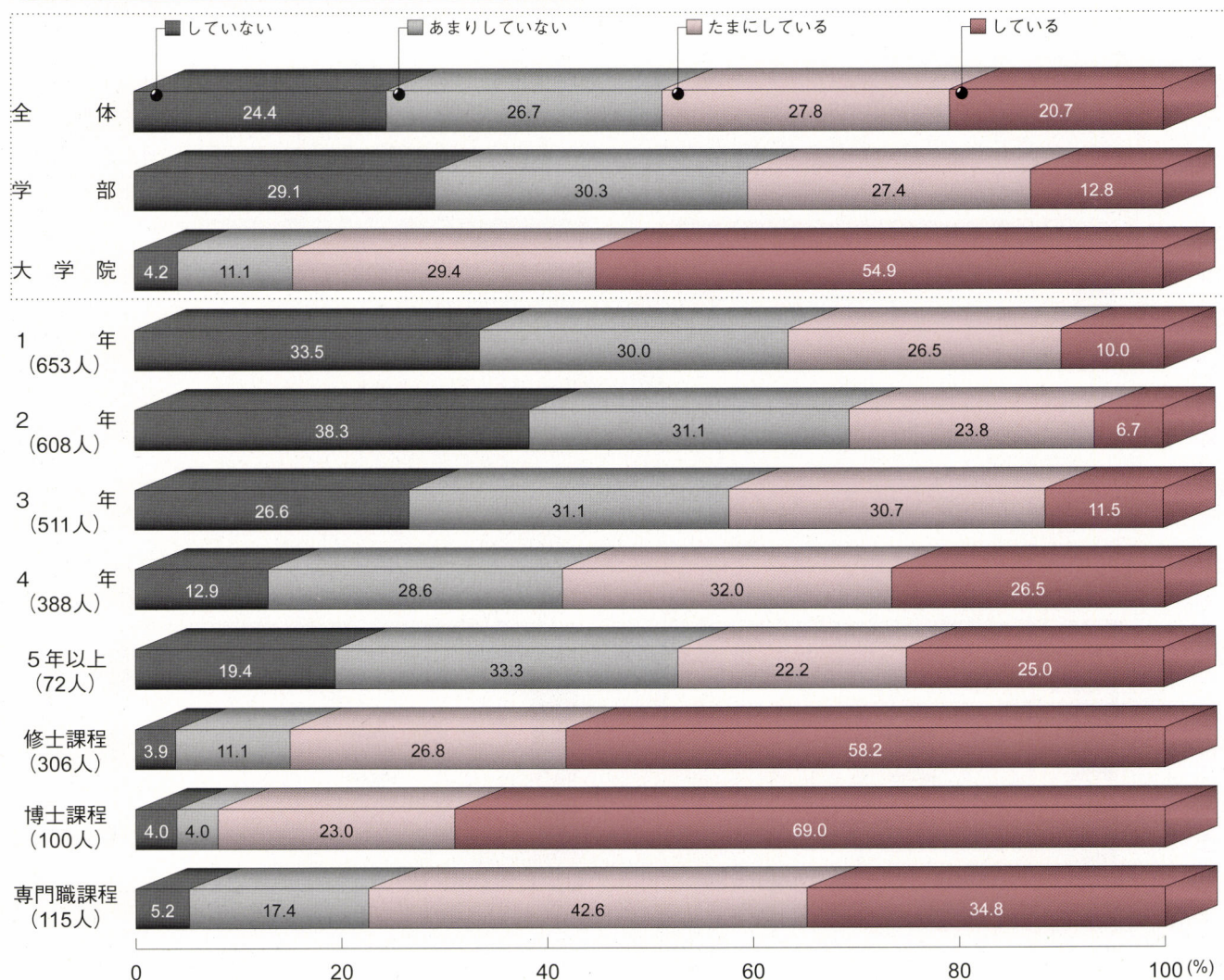
短時間でも教員と対話を「している」と回答したのは、全体では20.7%ですが、学部学生では12.8%、指導教員との関係が密になる大学院学生では54.9%、と4倍以上の開きがあります。中でも、低学年の学部学生では、1年生10.0%、2年生6.7%（「たまにしている」を含めても、各々36.5%、30.5%）と低い回答率です。

教員と対話をしている学生ほど大学生活が充実していると回答する割合が高くなっており、またグラフには示していませんが、教員と対話をして

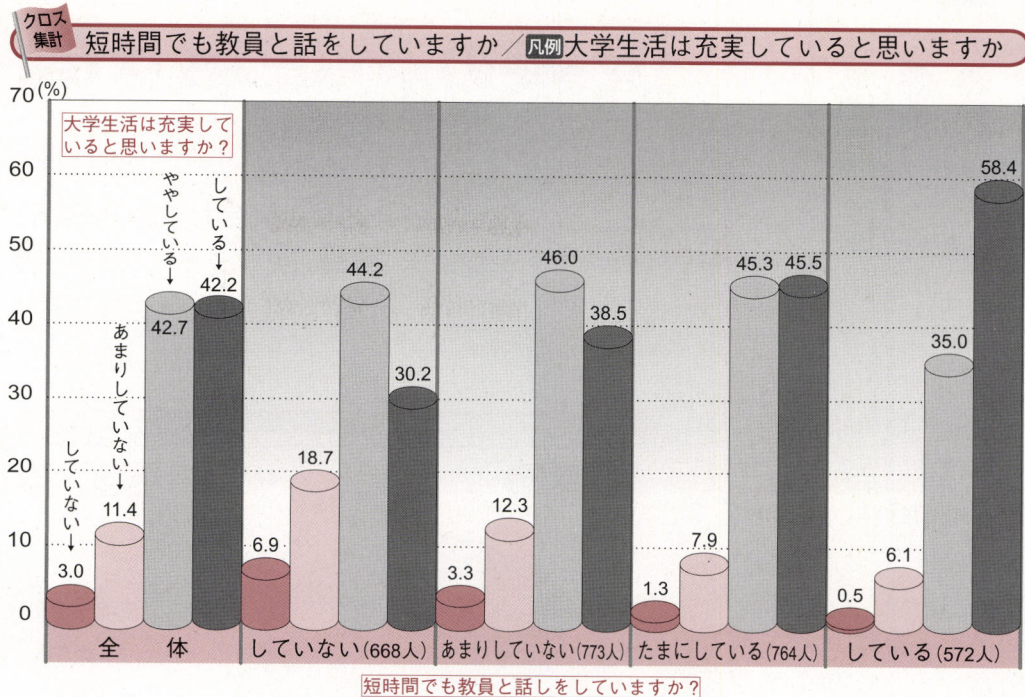
いる学生ほど、入学した学部・研究科に満足していると回答し、また、授業に興味があると回答していました。

授業への関心の喚起、所属学部への満足度、大学生活への充実度を高める一つのキーは、教員との対話にあるといえそうです。だとすれば、低学年の学部学生に、教員との積極的な対話の機会をどのように提供するか、大学側も知恵を絞って見る必要がありそうです。

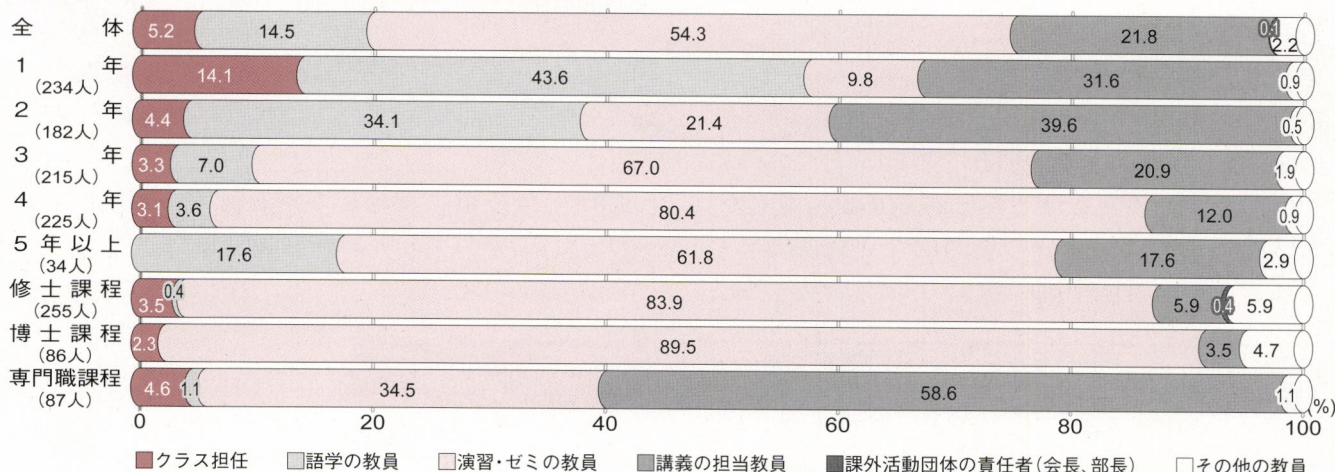
短時間でも教員と話をしていますか？ 学年別



教員と話を「している」、「たまにしている」と回答した学生が、よく話をしている教員は、1年生では「クラス担任」、1・2年生では「語学の教員」、3・4年生以上では「演習・ゼミの教員」、修士課程・博士課程におけるいわゆる研究室制度をとらない専門職課程では「講義の担当教員」となっています。

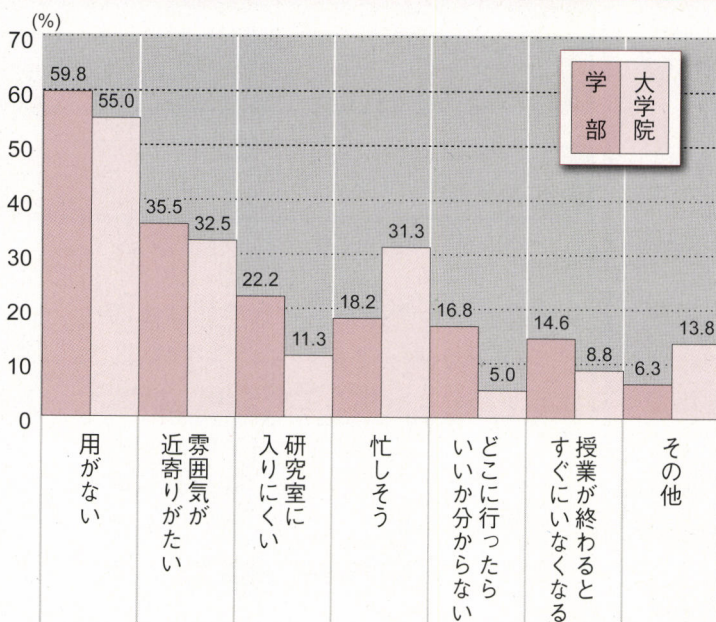


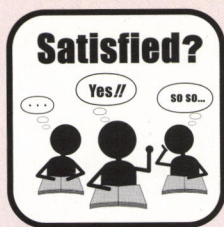
よく話をするのはどんな先生ですか 学年別



一方、教員と話を「あまりしていない」、「していない」と回答した学生に、その理由を尋ねたところ、学部学生、大学院学生とも、一番多い回答が「用がない」でした。積極的に学ぶ意識を持てば、授業なりゼミなりの担当教員に質問や意見をすることで接点を得る機会が増えるものと思われます。用があるのに、「雰囲気近寄りがたい」とか「研究室に入りにくい」という場合は、オフィスアワーを設置し、またこれを積極的に活用するようにすべきでしょう。また大学院学生の回答で特徴的なのは、教員が「忙しそう」が多いことで、研究・教育に奔走する教員の姿を間近で見て遠慮していることがうかがえますが、それでも積極的に教員に接触してくることを多くの教員は求めていると思われます。

教員と話をしにくい理由はどこにありますか [複数回答可]





授業の満足度は高くない

授業の満足度

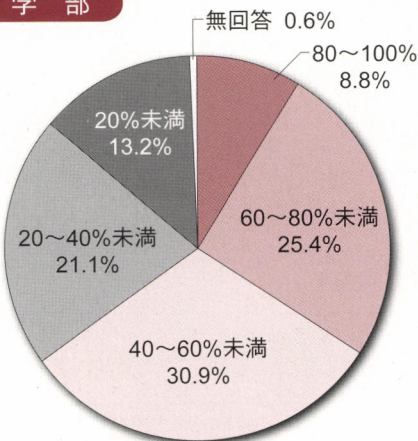
POINT

満足できる授業の割合が「60~80%」「80~100%」
学部学生 **34.2%** 大学院学生 **57.0%**

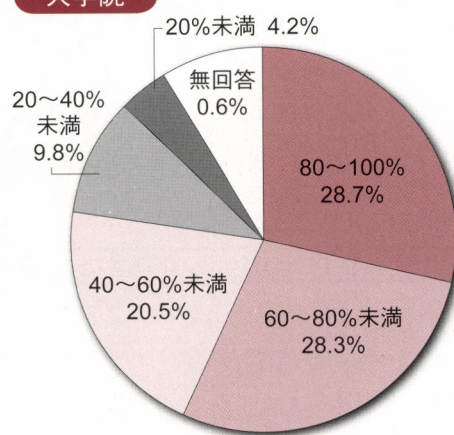
授業への興味に比べ、実際の授業のうち満足できるものの割合は、高くありません。特に、「80~100%」すなわちほとんどの授業が満足できるという回答の割合は、大学院学生でも約3割、学部学生では1割にも満たないという結果でした。グラフには示していませんが、これは、性別・文系理系別でも違いがほとんどありませんし、学部学生では学年別の差異もほとんどありませんでした。大学院学生では、自分の専門的な研究関連に絞られるためか、博士課程学生の5割以上が「80~

今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？

学部



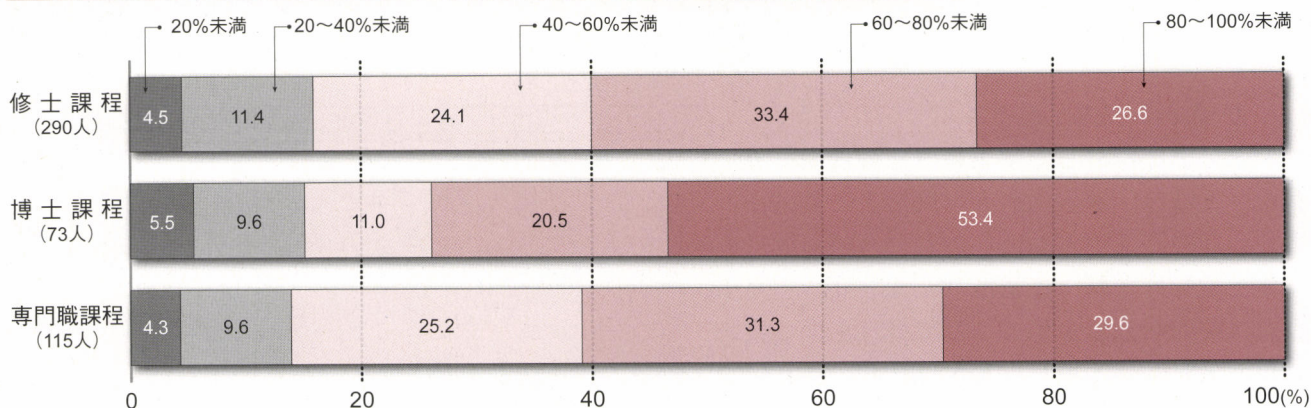
大学院



100%」の授業に満足している（「60~80%」も含めると、7割以上）という回答でした。

今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？

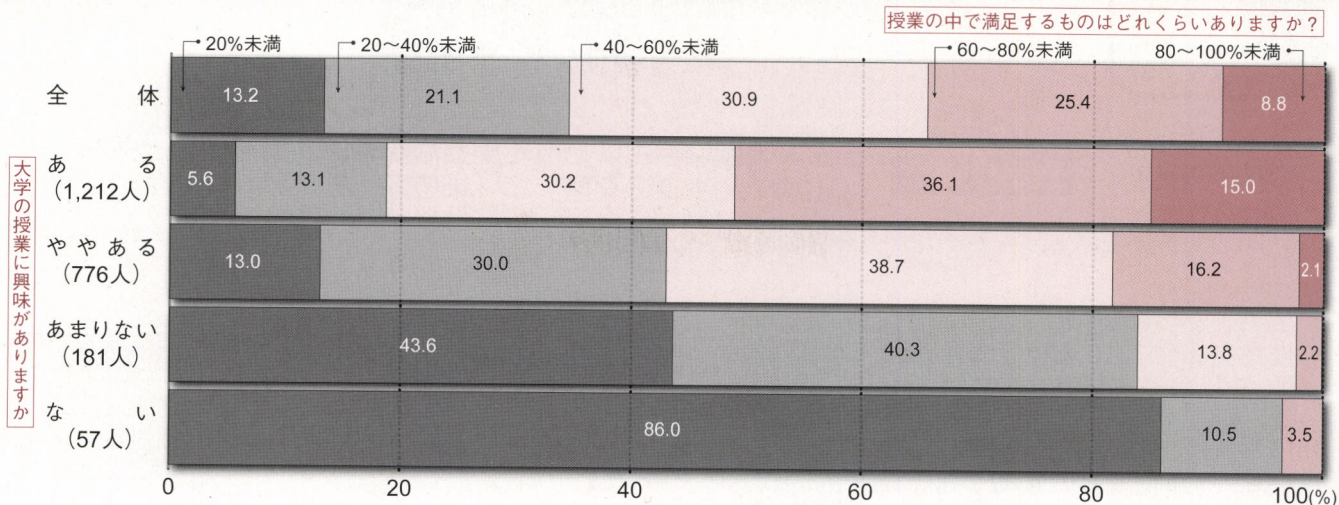
大学院課程
(修士・博士・専門職) 別



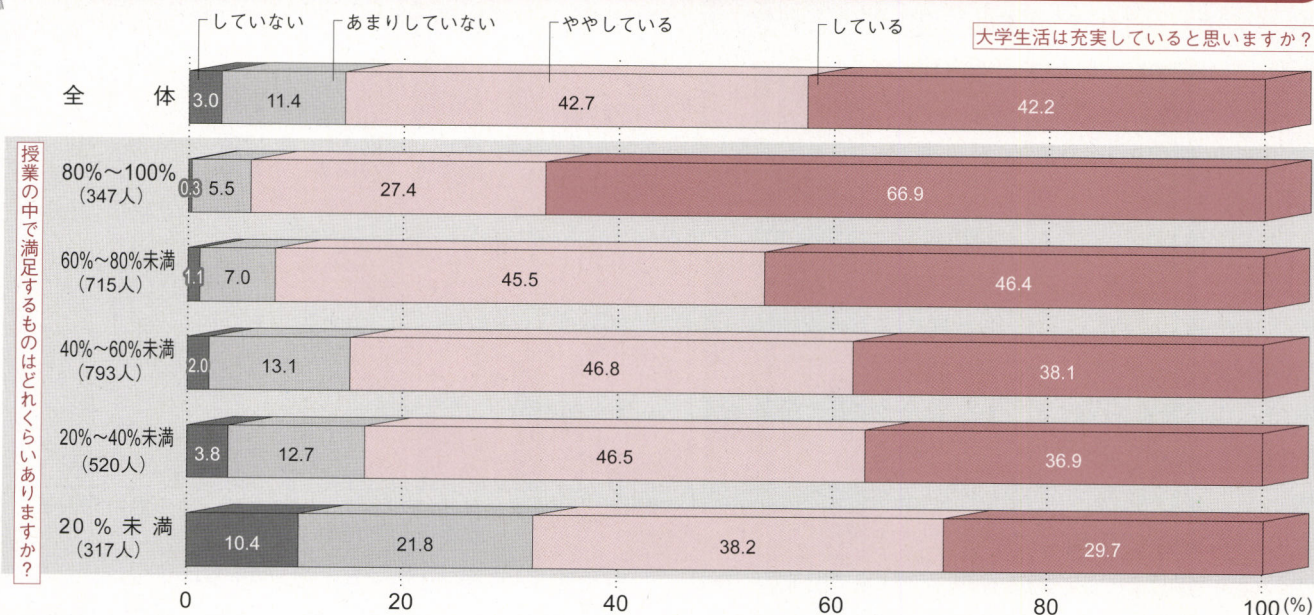
満足できる授業の割合と授業への興味には相関があり、授業への興味があると回答した学生ほど、満足できる授業が多いと評価しています。また、満足できる授業の割合が高いほど、大学生活の充実度が高く、そして、入学した学部・研究科への満足度が高くなっています。ここでもまた、充実した授業を提供することの重要性が示唆されています。

卒業に必要な単位を取るためにいやいや選択されている科目で、満足度を高めるのは、あまり容易なことではないでしょうし、また、学生の理解力や科目内容の難易にも差があることは事実ですが、授業評価を活用しながら、問題点の洗い出しと改善によりいっそう取り組んでいく必要があると言えます。

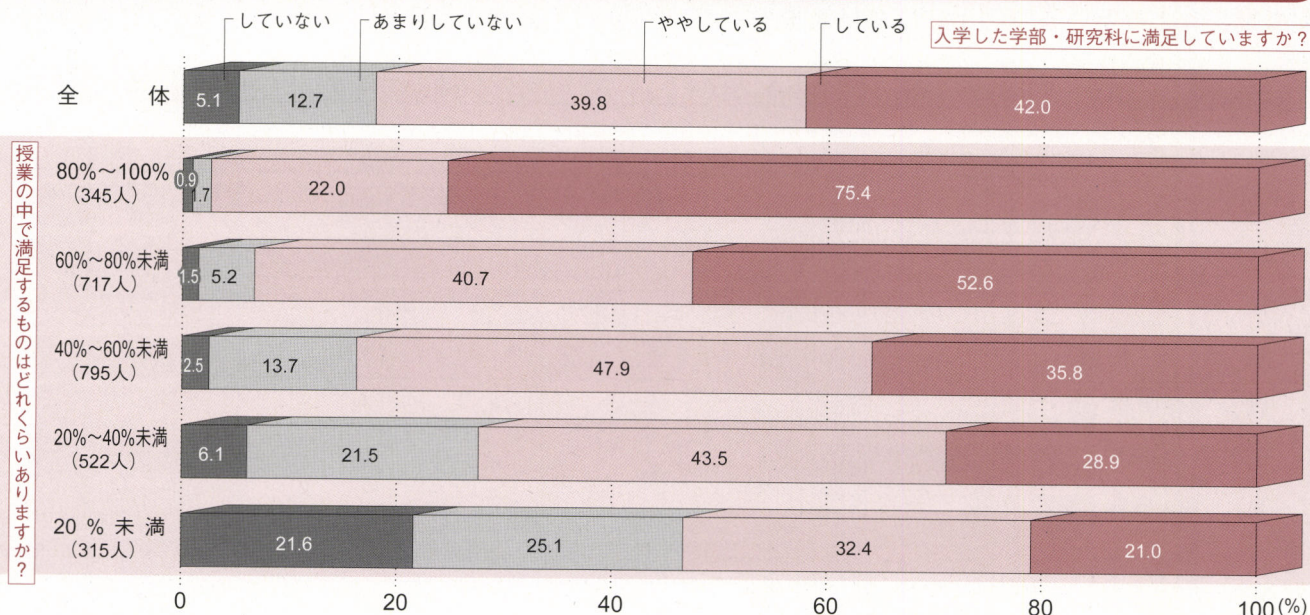
授業に興味はありますか？／凡例今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？

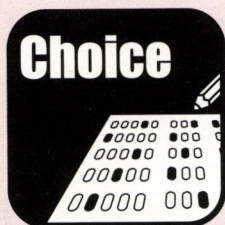


今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？／凡例大学生活は充実していると思いますか？



今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？／凡例入学した学部・研究科に満足していますか？





授業選択の主たる要素は 講義内容

授業選択の要素

POINT

出席率の低い学生にとって重要な要素は、講義内容と並んで「出席チェックの有無」、「単位取得の難易」

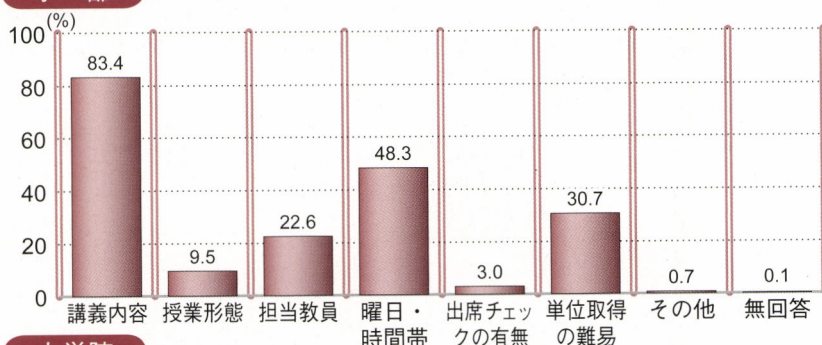
授業選択の際に重視する要素としては、学部学生全体では、「講義内容」(83.4%)、「曜日・時間帯」(48.3%)、「単位取得の難易」(30.7%)が上位3要素ですが、指導教員との関係が密になる大学院学生では、「講義内容」(93.1%)の次は、「担当教員」(48.1%)、そして「曜日・時間帯」(28.6%)となります。いずれにしても授業選択の最重要基準は、「講義内容」です。

学部学生においては、出席率との関係では、「出席チェックの有無」と「単位取得の難易」に他と異なる傾向が見られます。出席率の低い学生では、「講義内容」の回答割合が相対的に減り、「出席チェックの有無」や「単位取得の難易」という要素の回答割合が増加しています。とりわけ「出席チェックの有無」では、出席率70%未満と回答した学生の回答割合が過半数を超えます。いわゆる「楽勝」科目で、出席をとらない授業を選択しようという意図が透けて見えます。こ

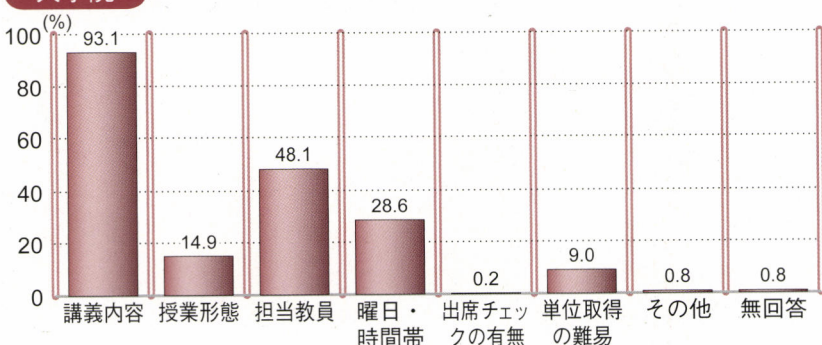
うした出席率の低い学生は、授業内容のつまらなさが原因というより、最初から出席する気がない学生のようにも思われます。こうした層への働きかけも必要となるでしょう。

あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？ [複数回答可]

学部



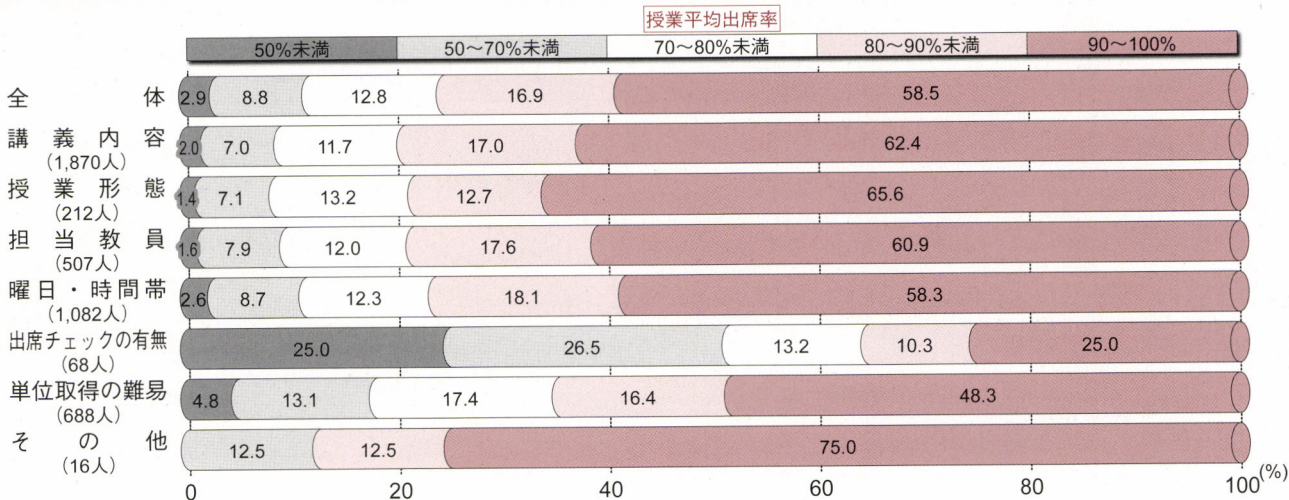
大学院

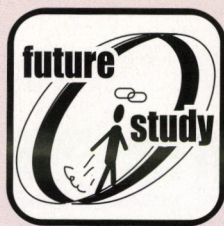


クロス集計

学部 あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？ / 凡例 あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？

授業を選ぶ際に重要だと思う要素は？





勉強が将来役立つと考える学生は ほとんどの授業に出席している

大学での
学問の有用性

POINT

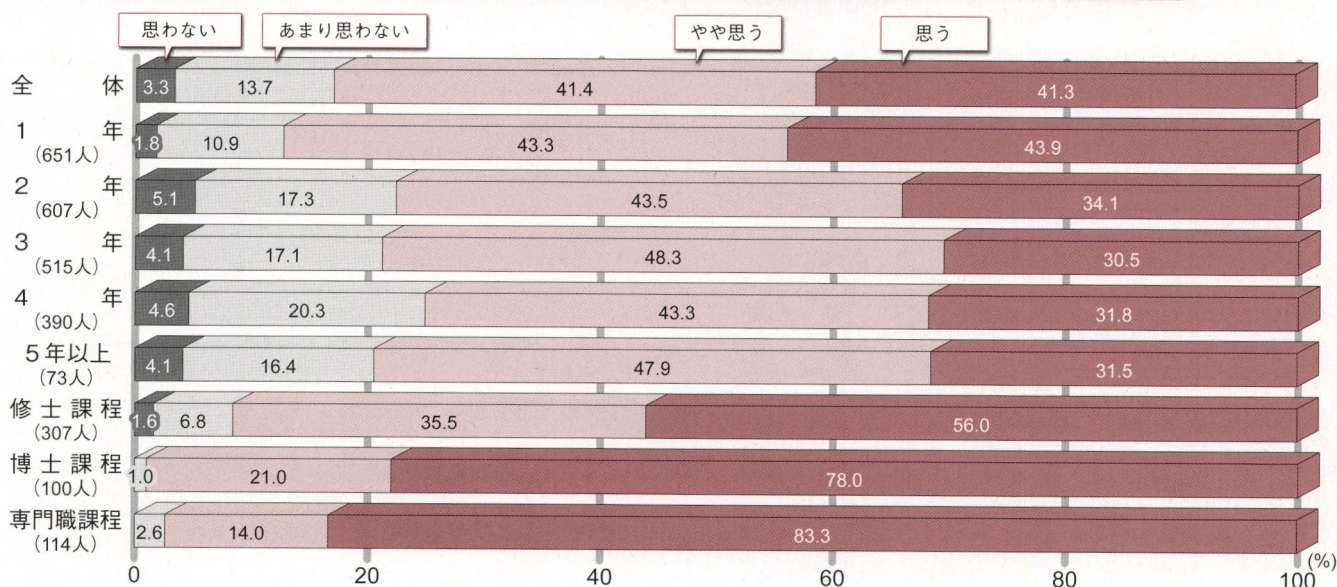
勉強が将来役立つと「思う」「やや思う」
学部学生 **80.1%** 大学院学生 **93.9%**

大学での勉強が将来役立つと「思う」と回答した学生は、全体で41.3%ですが、学部学生では35.5%、進路と関連づけて進学している大学院学生では66.0%と開きがありました。グラフには示していませんが、学部学生では、将来への有用性と授業への興味とは相関があり、大学での勉強が将来に役立つと考えている学生ほど、授業に興味があると回答していました。学年別では、学部学生では、入学直後の1年生で役立つと「思う」「やや思う」の割合は9割近く、「思わない」と回答した学生は2%にも満たないのですが、2年生以上で

は、やや消極的な回答の割合が増えます。大学院学生では、とりわけ博士課程学生と専門職課程学生で、将来に役立つと「思わない」という回答は全くなく、「あまり思わない」という回答も微々たるものでした。進路と現在の勉強を密接に関連させているようです。

一方、学部学生では、出席率の低い学生ほど、授業が将来役に立つとは思っていないという傾向があり、これが授業を受ける前からの決めつけなのか、授業を受けて不満足だった結果なのか、考えてみる必要があります。

大学での授業や研究・勉強は、来来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？ 学年別

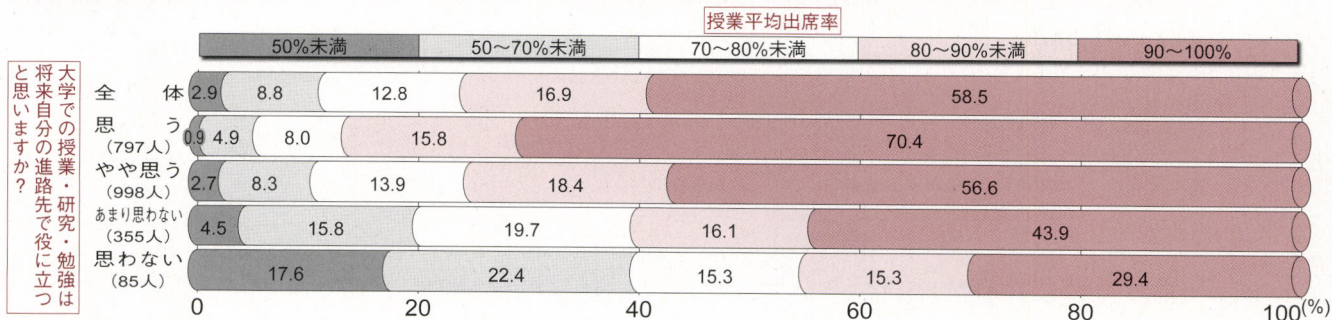


クロス
集計

学部

大学での授業や研究・勉強は、来来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？

凡例 あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？



大学での授業・研究・勉強は、来来自分の進路先で役に立つと思いますか？



留学への不安要因は、 留学費用と外国生活

留学への不安要素

POINT

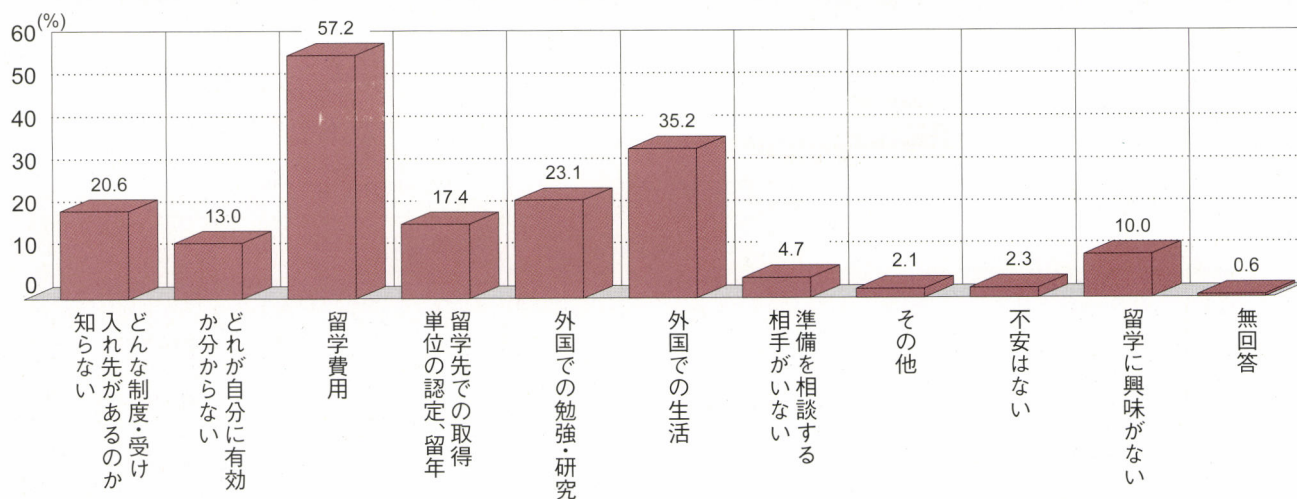
留学への不安

「留学費用」**57.2%** 「外国での生活」**35.2%**

留学への不安要因は、過半数が「留学費用」です。次いで、「外国での生活」、「外国での勉強・研究」の順です。グラフには示していませんが、学年別では、博士課程学生だけが、「外国での勉強・研究」を「外国での生活」よりも不安要因に

挙げる回答が多くなっていました。博士課程学生では、「留学に興味がない」という回答が最も低く（1.4%）、留学を、現在の研究と考え合わせ、具体的な対象として勘案しているようです。

もしあなたが留学するとすれば、留学について、以下に挙げる点で不安になる・躊躇する要素はありますか？
[複数回答可]



コラム

留学への不安要素はさまざまありますが、全体の留学生数は増加傾向にあり、1991年と2006年を比較してみますと、15年間で約5倍に増えています。私費留学は減少傾向にありますが、派遣協定、交換協定による留学は大幅に増加しています。留学に積極的にチャレンジする早大生の姿勢がうかがえます。

留学センターを積極的に活用し、留学についての正確な情報収集、相談をしてみてください。

■留学センター

【URL】 <http://www.waseda.jp/cie/index-j.html>

(出典) 数字で見る早稲田大学

<http://www.waseda.jp/jp/global/guide/databook/2007/number05.html>

